

## 令和5年度第3回すみだタウンミーティング 議事録(要約)

ファシリテーターから開催主旨と到達目標について説明

今日は小学生のタウンミーティングということで、各グループで提案を作り、区長に提案するというのが最終的な目的、ゴールになる。

昨年、「こども基本法」という法律が施行された。第三条の条文を要約すると、子どもたちは、自分に関係することについて自由に意見を言う権利があり、大人は子どもたちの意見を尊重しなければいけないということが明記されている。

今日は、みんなから意見を聴いて区の政策に反映してもらおうという会になる。「自分たちが今も未来も楽しく過ごせるようになるために」というテーマで区長に提案するのが今日の最終的な目的、ゴールになる。

最初の1時間は、アイスブレイキングを行い、その後区長が来たら、区長とのアイスブレイキングを行う。そして区長への提案を考え、最後に区長へ提案を発表してもらおうという形になる。今日は、8つのグループで活動していく。

### ～子ども同士のアイスブレイキング(1時間)～

区長挨拶

タウンミーティングは、区民と意見交換をして、区の政策や事業に反映をしていくために、区長になってからずっと続けている取組である。区民と一緒に問題を考え、すみだのまちを一緒に作っていくというのが狙いである。

今年度で9年目の事業だが、今回は初めて小学校5、6年生を対象に実施することとなった。普段学校で活発に発言しているのと同じように、緊張せず堂々と楽しくやっていただきたい。さらに小学生ならではの発想、アイデアで発言をしてほしい。区政に意見を言うことが大事だということを、ぜひ理解していただきたい。

区では、子ども・子育て支援を重要な政策として力を入れている。国も「こども基本法」という法律を作り、子どもが自分に関係することについて、意見を言える機会が確保されることが大切であるということを法律に明記した。このような動きがある中で、小学生の皆さんが考えていることを自由に発言していただいて、意見を聴いてみたいということで企画させていただいた。

区長と参加児童とのアイスブレイキング(参加児童から区長への質問)

A班：区長は必要なのか？

区長：いきなり厳しいが、良い質問だと思う。現在、墨田区には約28万5,000人の人口がいる。そして、この墨田区役所には、会計年度任用職員も入れると約3,000人近くの職員がいる。その中には、新人職員、係長、課長、部長、教育長、副区長といった様々な立場の職員がいるが、その中で、私が長になって、その全体をつかさどり、上手く見ながら運営をしていく役割を担っている。

区民の中でも同じように、例えば町会には町会長、学校には学級委員、そして委員長がまとめ

役としている。したがって、区長は必要だと思う。

B班：区長は墨田区にどんな縁があるのか？

区長： 9月に誕生日を迎えて、62歳になった。実は生まれて62年間、一度も墨田区を出たことがない。墨田区向島で生まれ育ち、今も墨田区で仕事をしているという意味では一番、縁があると思う。また、そのような人生を歩んでいると、本当に墨田区が大好きで、この区を良くしたいという気持ちがあり、また世代を問わず墨田区の人よさに触れていい仕事をさせてもらっていると感じる。墨田区を大好きな男であると皆さんに知ってほしいと思う。

C班：墨田区は大きな災害があったとき、どのような手段を取るのか？

区長： 1月1日に能登半島で発生した地震の様子を報道で見ると、亡くなった方もいらっしゃるし、寒い避難所で避難をされている方がたくさんいらっしゃって、小学校5、6年生にとっても関心事項であると思う。

墨田区は荒川と隅田川に囲まれていて、水害の危険性が高い土地である。また、今朝もタウンミーティング開始前に地震があったが、皆さんがすぐにテーブルの下に入ったということで、それだけ学校でもちゃんと地震対策をしているということがわかった。能登半島地震では屋外で火災が発生して燃え広がったが、木造密集地域のある墨田区でもそのような心配がある。したがって、墨田区では、先ほどの子ども・子育て支援と同じくらい、防災を課題と捉え、力を入れている。

ハード面の対策の一つとして、燃えない壊れないまちづくりというものがある。また、避難所を開設した際にどのように区民の命と健康を守るか、医療体制をどうするか、備蓄の物資は十分か、もっと細かいこともあるが、そのような防災対策が必要である。

D班：墨田区の中で一番好きな場所はどこか？

区長： いろいろ素敵な場所があると思うが、一つ言えるのは、東京スカイツリーが墨田区のシンボルであるのは間違いないと思う。また、両国には国技館があり、錦糸町には錦糸公園もあって、買い物にも便利であるが、今後、有楽町線が延伸したら、さらに便利になる。曳舟の駅前も変わってきている。鐘ヶ淵も今後、鉄道高架化を目指している。横川には11月5日に新しい保健センター（すみだ保健子育て総合センター）ができる。いろいろな場所を好きになれるよう、全体を見渡しながら区政運営をしていくということが必要であると思う。

皆さんにも、自分が住む地域やそれ以外の地域に関心を持って、好きな場所をもっとこうしてほしいといったことを一緒に考えてほしい。

E班：一番好きなファミレスはどこか？

区長： いろいろな店に行く。例えばファミレスではないかもしれないが、寿司専門店なんかなにも行く。曳舟駅前のファミレスにも行くことがある。墨田区内いろいろなお店を利用するので、見掛けたら声を掛けてほしい。

F班：墨田区はどれだけお金を使っているのか？

区長： 一般会計は、昨年度決算ベースで1,350億円ぐらい。令和6年度予算のプレス発表を控えているが、昨年度の決算額ベースで多分予算ができていますので、1,370億円くらいになると思う。ここに、教育、高齢者福祉、障害者福祉、道路整備、都市整備、人件費等、それらを全て含めた数字が含まれている。

G班：墨田区でこれまでに一番お金をかけた建物は何か？

区長： 区の公共施設という建物だと、おそらく区庁舎である。平成2年に竣工し34年経つが、当時でもおそらく100億円くらいかかったと思う。

民間の建物も含めると、やはり東京スカイツリーである。タワー部分の総工費が約650億円、周りの商業施設等を建てるのに約780億円、全部で約1,430億円といわれている。詳しくは、東武鉄道さんになる。

H班：墨田区の政策の工夫は何か？

区長： 区民の皆さんに喜んでもらい、満足してもらうことが区役所の仕事の究極目的である。そのために政策を立案し、事業として予算化して執行するというのが私たちの仕事であるが、政策の工夫を問うというのは小学生として、すごく高度な質問だと思う。

最も重視しているのは、今日のタウンミーティングのように区民の皆さんからの意見、要望、困っていること等を聴いた上で、政策に落とし込んでいくことである。ただし、予算に限りがあるので、いかに工夫して配分するかを考えて、予算編成をしている。

また、何でも言われた通りにやるのではなく、政策によってどんな効果が上がるのか、エビデンスとあって、証拠とか根拠をしっかりと持って政策を作っていくということが私の考える政策の工夫である。

区長と参加児童とのアイスブレイキング（区長から児童への質問）

区長： 一つ目は、タブレットについて聞きたい。コロナ禍をきっかけに、小学校1年生から中学校3年生まで全員にタブレットを用意した。それから4年経ったが、タブレットを使った感想、タブレットを活用してやりたいこと等があったら聞いてみたい。

参加児童回答1： タブレットの導入で便利になったと思うが、結局教科書も一緒に持つので、ランドセルが重くなったと感じている。教科書をなくしてタブレットだけにしたら、持ち運びの負担が軽減されると思う。

参加児童回答2： 反対の意見になるが、タブレットの画面より紙の方が覚えやすいので、全て教科書にした方が良いと思う。学校にコンピュータールームがあるので、パソコンを使った調べものはそこでもできる。

区長： 今は、タブレットを使っている訳で、私も紙の方が良いと思うこともある。ただ、これからの時代それを使いこなしていくということも大切である。

区長：二つ目は、墨田区の良いところや、墨田区についてどのように感じているか聞きたい。

参加児童回答1：「すみだ子どもPR大使」をやっていて、その時にいろいろな体験ができたことに魅力を感じた。

参加児童回答2：墨田区はどこの区よりも生活しやすい。自分の住む地域は、行事や学校の出前授業がたくさんあり、大人も優しく、設備も充実しているところが良いと思う。

参加児童回答3：ゴミがあまり落ちていないすごく綺麗な街だと思う。

参加児童回答4：都心から少し離れて落ち着いた街で、さらに錦糸町や東京スカイツリー等の観光資源もあり、すごく良い街だと思う。

参加児童回答5：年齢などいろいろな立場の人を考慮している良い街だと思う。

区長：三つ目は、自分が何になりたいか、将来の夢がある人は答えてほしい。

児童回答まとめ：将来の夢は、体操選手/デザイナー/テニス選手/パティシエ/学校の先生(他1)/空港の税関職員/保育士/イラストレーター/ファッションデザイナー/家がお寺なのでお坊さん/アーティスト/自衛官/小児科医/YouTuber(ユーチューバー)

区長：夢に向かって、今からできることを一步一步積み重ねていくとともに、夢に近づいているか検証していくことが大切だと思う。

私も皆さんと同じ年の頃は、スポーツ選手になりたかったが、現在は区長をしており、子どもの頃の夢が叶ったわけではない。ただ、人生を重ねていく中で、もっと自分に向いていることや他にやりたいことが新しく見つかるということもあると思う。皆さんの将来の夢をたくさん聞くことができ、良かったと思う。

～各グループから区長への提案を発表～

提案のテーマは「自分たちが今も未来も楽しく過ごせるようになるために」

区長への提案発表(A～D班)

A班：「水害対策」について提案する。

墨田区にあまりお金がないのは、人口が少なく税収が安定しないためであると思うので、危険なところを減らしていけば、人口が増えると思う。また、川に挟まれていることから、水害が一番のリスクであると考え、提案する。

例えば、墨田五丁目は川に挟まれていて危険度が高いが、墨田五丁目から区役所は遠いので、近くの避難場所として、東向島四丁目付近に公園兼避難所のようなものを作ると良いと思う。

B班：「墨田区の小中学校の児童・生徒が交流する機会づくり」について提案する。

例えば、音楽会や運動会を小中学生が一緒に実施することで、子ども同士が楽しみながら交流を深めることができる。

また、運動会であればリレーの作戦会議等を通じて、いろいろな意見が出ることで、団結力が深まり、楽しむことができる。学芸会であれば、他の学校がどんな演技をするのか考えたり、演技を見たりすれば、子どもの笑顔が増える。さらに、小学校を卒業した後の進路を決めやすくなると思

う。中学校の生徒と会って話すことができれば、中学校の様子ができる。これらの理由から、小中学校の児童・生徒の交流について提案する。

C班：「遊ぶ場所」について提案する。

私たちが困っていることは、「遊ぶ場所」である。小学生は行動範囲が狭く、公園ではボールが使えない場合があったり、花火ができる場所が少なかったり、高学年向けの遊具が少なかったりするので、公園に行っても何をして良いかわからない。

次に、その改善点である。ボール遊びについては、フェンスのある公園やボール遊び専用の公園を作ると良いと思う。花火については、18歳以上の人を同伴をしていたら良いなどのルールを作ることで、安心安全対策をしっかりとすると良いと思う。

次に、行動範囲についてである。今は学区によって行動範囲が決まっているが、近い学区同士で合併すれば良いと思う。

最後に、歩道について困っていることがある。高齢者や小さい子どもを連れた保護者が、信号や歩道の段差で困っている姿を見かけるのが気になる。また、狭い道が多く、そこに駐車している車が邪魔で歩けなくなっている人を多く見る。改善点として、バリアフリー化して段差を緩くする、スロープを付ける、アスファルトを滑らかにして熱を吸収しない素材にしてほしい、という意見が出た。

D班：「多種多様な使い方が可能な広い公園の整備」について提案する。

理由は、電子機器が増えたことで運動する機会が減少していること、子どもは広い公園があったら外で遊びたくなることの二点である。放課後に外で集まっても運動以外の遊びをすることが多いが、公園の設備が充実していれば、様々な運動や遊びができるので、子どもの運動不足を改善できる。

保健の先生から、現代の小学生は運動する時間が短いという話を聞いた。多種多様な使い方ができる広い公園があれば、運動する時間が長くなると思う。広い公園を作ること、運動する時間を増やすことができ、子どもたちも楽しく遊ぶことができると思う。多種多様な広い公園を作ること、アスレチック等で楽しく運動できて、体力もつくといったメリットがあると思う。外で体を動かす遊びをする子どもたちが少ないため、広い公園がほしい。

区長： まず前半の4グループ、大変鋭い視点で、子どもたちならではの解決案を入れていただきとても感心した。

A班の、水害対策として、近くに避難所を設けてほしいという、具体的な場所まで指定して解決策を提案してくれたのは素晴らしい提案であると思う。ハザードマップというものを全区民に配布しているが、中には5m水が上がって、2週間引かない地域がある。

このように厳しい状況であると、ハザードマップで区民の皆さんにお知らせしているが、区の防災、水害対策、洪水対策について、今の意見を参考にさせていただきたいと思う。

B班の交流の機会を作るという提案であるが、とてもフレッシュで良い提案である。現に、今日ほとんどの小学校の児童が集まって自然に交流ができて、活発に意見が言い合える場面を見た

ことで、B班の提案はすごいと感じた。横のつながりを持つ機会を作るといことと、中学生と縦でつながって、進路の参考にもなるかもしれないという政策的な目的を踏まえた交流を提案したという点が、大変素晴らしい。ぜひ、教育委員会とも意見交換しながらやってみたいと思う。

C班からは、遊ぶ場所、花火ができる場所、ボール遊びができる場所、とても具体的に三つの提案をいただいた。また、行動範囲という言葉があったが、小学生の皆さんには、あまり遠くに行くことができないという制約があるということに気づかされたという点で、鋭い提案だった。ボール遊びができる広場も作っていききたいと思う。例えば、錦糸公園野球場は水曜日の午後にボール遊びのできる広場として開放するよう、少しルールを変えたこともある。また、フェンスをつけてボール遊びができるというところも、来年度予算の中でも少し考えていききたいと思っているので、ぜひ期待をしていただきたい。それから、花火については、大きい打ち上げ花火は近隣の人に迷惑がかかるので、禁止している公園があったかもしれないが、子どもたちが遊べる範囲の花火というのは、公園でやっても良かったと思う。後片付けをきちんとしていただくといったルールを守った上で、親や18歳以上の方が一緒にいれば、花火をやってもいいという認識だったが、この提案については、後で確認してみたい。それから段差と、狭い道についてご指摘をいただいたが、まさに我々も課題として持っている点である。すごかったのは、スロープを作るというだけでなく、その素材にまで触れたところが提案として、レベルが高いと思った。

D班、多種多様という言葉をしっかり付けて、提案をしていただいた。小学校の5年、6年生で修飾語をつけて表現するところがすごいと思う。また、自分たちが運動不足だということを知っている点が小学生ながら鋭く、自分たちの課題であると感じているのだと思う。今の時代では、子どもが家の外でゲームをすることもあるのだと思いつつも、やはり運動ができる広場の整備が区の課題であるということをしっかり伝えてくれた良い提案だと思う。隅田公園、錦糸公園など大きな公園もあるが、墨田区は土地が狭い。面積は13.77㎡、23区の中で下から7番目に小さな区なので、大きな公園をどんどん作っていくことは難しさもある。そこは工夫をして、広げていくということを考えたい。また、アスレチックという言葉があったが、墨田区の公園では、アスレチック等の遊具をあまり見かけないというご指摘かと思う。「わんぱく天国」という公園があるが、ぜひ、来年からもっと子どもたちがわんぱくに遊べる公園にしたいと思っている。今の提案をしっかり受けて、ぜひ公園づくりに活かしていきたいという意味で、とっても良い提案だったと思う。4グループとも素晴らしい提案だった。ぜひ区政運営に活かしていきたい。

#### 区長への提案発表（E～H班）

E班：「マンガ図書館の整備」について提案する。

理由として、「マンガ図書館」は、唯一無二で他の区にはないため、注目を浴びて、観光客が増える可能性があると思う。学校の図書室には、歴史のマンガしか置いておらず、マンガが借りられない学校もある。暇な時にも行ける場所として、「マンガ図書館」があるといいと思う。シリーズがたくさんある漫画は全部そろえるのが大変であるが、「マンガ図書館」があれば、全部読むことができる。場所は、人口が多い錦糸町付近に寄せるというのが良いと考える。ただし、押上付近は観光客が多いため、もう少し南の人が少ない場所が良い。また、館内には会話して良い場所と会話禁止の場所を作ると良いと思う。

F班：「スポーツ振興」について提案する。

現在、小中学生には、コロナ禍で行動制限されていた感覚が残っていることやインターネットの流行によって、運動する機会が少ないことが問題として挙げられる。そこで、小中学生限定のジムや球技が楽しめる運動場を作り、意識的に体を動かす機会を作ることが大事であると考えた。

例えば、ラジ体操のようにカード（出席カード）を導入することや気軽に行けるようにイベント等を実施することが重要である。球技専用の場所を増やすのも良いと思う。ジムを整備する場合は、施設内にトランポリン、エアロバイク等、子どもにとって安全な設備を入れると良いと思う。

G班：「いじめをなくすこと」について提案する。

具体策として、全員に話を聞く、カウンセリングアプリや目安箱等を作る。不登校の人たちの居場所を増やす。児童、生徒が自分たちで時間割を決めて、学校に行きやすくする。読み書きなどができなくても通うことが可能な施設を作る。学校内の大人の目を増やすことを提案する。

H班：「タブレットの適正使用」（授業中に関係ないことをするな！）について提案する。

私たちの班では、タブレット賛成と反対両方の意見があった。反対派の意見として、授業中にタブレットで関係のないことをして、授業が中断してしまうことがあるというものがあった。対策として、授業中に児童が使うタブレットを先生が見ることができるようにしたり、閲覧禁止のサイトに入ると先生に通知され、わかるようにすると良いと思う。

また、タブレットが重いという課題がある。現在、タブレットは手持ち部分がある重いカバーなので、上履きのように、手提げ袋があると嬉しい。一年生のうちから、キーボード付きのケースにして、ローマ字に慣れることも大切だと考える。

区長： 後半の4グループは、インパクトのあるキーワードを用いた提案でわかりやすい。H班の「授業中に関係ないことをするな！」は、私に言っているのかと思うくらい非常にインパクトがあり、区役所の職員も見習いたいくらいの提案の仕方だった。

まずE班、「マンガ図書館」を作ろうという提案だが、そのうちどこかで実現するのではないかと思わせるような内容で、提案を承った。キーワードとして、唯一無二、23区初など印象に残った。「マンガ図書館」というその発想も面白いが、マンガやアニメは、世界に誇る日本の文化であり、そこを強調できているということと、暇なときに行ける場所という着眼点がまた面白い。居場所づくりというのは、区政のテーマの一つであり、学童クラブ等はあるが、「マンガ図書館」があると放課後の居場所にもなると思う。しかも、作るだけではなく、会話OKの場所と禁止の場所を設けるというすごく具体的な提案、非常に鋭く面白い提案だったと思う。

次にF班、キーワードとして「スポーツ振興」という言葉を小学生が使ったことに、少々驚きもある。そのほか、コロナ禍という言葉を使ったり、気軽に行けるとか、気軽に参加できるという、区政の中でも非常に大事な要素をうまく「スポーツ振興」という大きなテーマと融合させている。運動施設や運動場にトランポリンを入れれば、子どもも来やすい。様々な要素が一つの提案の中にしっかり組み込まれていて、とても面白い提案だったと思う。それから身近な例として、

夏休みのラジオ体操も墨田区の文化の一つであるが、朝早く行ってカードをもらって、皆勤賞だと最後の日に賞品が貰える。このような心を引くやり方をしたらどうかという、この点も相当レベルが高いと感じた。大変良い提案だったと思う。

それから、G班はいじめに提案のテーマを持ってきたのが鋭い。教育委員会としても、いじめ対策を行い、いじめがなくなるようにと努力をしているが、いじめられている当事者にとって、電話での相談は少々ハードルが高い。そこで、今度タブレットを含めて、気軽に相談できるという方向の取組も進めている。子どもが相談しやすいように、アプリを使って、または目安箱のようなものを取り入れてはどうかという意見は、とても鋭い。まずは相談窓口の設置について工夫し、その次の段階として、施設、居場所のようなものを用意してはどうかという、非常に区への提案として、具体的でとても素晴らしい提案である。もう一つ、今日ここにいる35人の子どもたちは、いじめを見たときに、どのような対応を取るのかということも、いじめにおいて、大事なことであると思う。ぜひ勇気を持って、いじめられている子といじめている子が上手くいくように、自分たちも行動(工夫)するということも改めてお願いしておきたいと感じた。区の方に提案をしていただいた内容は、我々の方でもまた考えさせてもらうが、そういう場面に出会ったときに仲間を思いやる気持ちを持って、どのように振る舞うか、この点も墨田区の子どもの良さであると思うので、そのようなことも考えていただけたらと思う。

最後のH班だが、「授業中に関係ないことをするな!」と全員で声をそろえて、提案なのか、訴えなのか、いろいろ驚いた。インパクトがあってわかりやすい投げ掛けだったと思う。提案内容であるが、グループ内で賛成派と反対派がいた中で、どちらかという反対派の意見が出てきたが、自分たちの授業環境を、タブレットによって規律の乱れたものにならないようにすべきであるという、非常に前向きで、先生方や教育委員会事務局に対するストレートな投げ掛けだったので驚いた。授業中に関係ないことをすることによって授業が前に進まなくなるとか、学校現場にいる子どもたちの具体的な意見として、非常に貴重な意見だと思う。それから、ランドセルの重さ、持ち運びの便利さ、教材を持って学校に行く人しかわからない悩みを我々に伝えてくれたということにおいて、とても現実的な良い提案であると思う。

#### 参加児童の感想

- 参加児童1： とても良い経験になった。もっとこうした機会を増やすと、斬新な意見を取り入れられると思う。区長にはこれからも頑張ってもらいたい。
- 参加児童2： 墨田区の良さが改めてわかった。このような機会を増やすことと、もっといろいろな人にタウンミーティングを知ってもらうことが大切なのかなと思った。すごく楽しかった。
- 参加児童3： いろいろな人の意見を聞いてすごく良かった。タブレットの問題など、月に一回こうした機会があれば、いろいろな人の意見を聴けるから良いと思った。
- 参加児童4： とても良かった。区長が実際に区民の意見をちゃんと聴いてくれるというのがすごく嬉しかった。ありがとうございました。
- 参加児童5： 最初は堅苦しくて緊張した雰囲気なのかと思っていたが、区長がとてもフレンドリーで楽しくて、提案内容を考えやすかった。
- 参加児童6： あまり区長と話したりすることがなかったため、こうした機会があって話したり、他の学



校とも交流ができてすごく楽しかった。ありがとうございました。

参加児童 7： いろいろな身近な問題を解決する提案や意見を聴けたのですごく良かった。区長に会えて光栄です。

参加児童 8： 区長と話して、墨田区のことをもっとよく知れたので、これからはもっと墨田区を大切にしたい。

#### 区長閉会挨拶

区長： 今日のタウンミーティングは間違いなくやって良かったと思う。今の感想を聞いた中で、みんなが良い機会をいただいたという素直な気持ちを持ってくれたことと、「ありがとうございました。」という感謝の気持ちを持てたということで、皆さんはやはり墨田区の子どもだと思ひ、可愛さ、真面目さといった私の中にある小学生像も感じた。とても素晴らしい子どもたちだということに改めて認識した。

まず、今日 8 グループからいただいた提案については、とても素晴らしいものばかりだった。令和 6 年度に向けて、間違いなく今日の 35 人からの意見を頭に入れて、絶対に活かしていきたいと思うので、ぜひ注目していただきたい。

また、とても嬉しかったこととして、会えて良かったということを書いていただいた。ぜひ街でお会いできたら、タウンミーティングに出ている だと、話し掛けていただければと思ひ、私は、区政をやるにあたって、やはり身近な存在でいたいと思ひているので、気軽にこれからも皆さんと意見が言い合えるようにしたいと思ひている。それから、墨田区をもっと大切にしたいという言葉を書いていただいたが、SDGs の話をしているグループもあった。持続可能な日本、持続可能な墨田区に向けて、みんなの力で工夫してこの社会を守っていこうという大きなテーマであるが、今後そうした社会を作っていくのは自分たちとなる。地球温暖化やルール、マナーを守らない人、凶悪な事件、災害の発生、そうしたことに当事者として立ち向かうのは、おそらく皆さんだと思ひ。今日は現状の区の課題について、お答えしたが、これから皆さんが目標としている職業に就いたり、夢を持って努力をしていく中で、自分たちの役割だったり、自分たちが地球環境を守るためにどうしたら良いか、直接皆さんが考えていくことになる。

ぜひ、これからも勉強し、運動不足の人は運動もいっぱいして、笑顔で元気に、そして最後に感謝の気持ちを持って、「ありがとうございました。」という言葉が言えるように、これからも頑張っしてほしいと思ひ。大いに期待しているし、私は今日のことを一生忘れない。私自身がみんなに励まされ、良い勉強になったタウンミーティングだった。今日は本当にどうもありがとうございました。